

教育内容と必要な単位数および教育目標について

参考(現行)

教育内容	単位数 (単位)	教育の目標
基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活	5	医療従事者として必要な科学的・論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う。 加工技術の基礎となる知識を習得する。 国際化及び情報化社会に対応する能力を習得する。
専門基礎分野 歯科技工と歯科医療	3	歯科技工学の目的、歯科技工士の歯科医療における役割、医の倫理、歯科疾患・歯科治療の概要について理解する。また、歯科技工士に必要な関係法規について習得する。
歯・口腔の構造と機能	7	歯の形態を十分に理解し、歯の発生、加齢、歯周、頤蓋の骨及び口腔周囲の筋について習得する。 顎関節の形態、顎口腔の機能、顎運動、咬合器、修復物の咬合について習得する。
歯科材料・歯科技工機器 と加工技術	7	歯科技工に使用する材料の歯科理工学的性質・安全性・品質検査及び歯科技工に必要な機器の知識と加工技術を習得する。
専門分野 有床義歯工学	12	有床義歯に関する知識を理解し、有床義歯製作の技術を習得する。
歯冠修復工学	13	各種の歯冠修復物に関する知識を理解し、歯冠修復物製作の技術を習得する。
小児歯科技工学	2	小児歯科の基礎的概念を理解し、乳歯歯冠修復物と咬合誘導装置製作に関する知識と技術を習得する。
矯正歯科技工学	2	矯正歯科の基礎的概念を理解し、矯正装置製作に関する知識と技術を習得する。
歯科技工実習	11	知識・技術を歯科臨床の場面に適用し、理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を習得する。
合 計	82	

学科目	総時間数 (時間)
外国語	30
造形美術概論	15
関係法規	15
歯科技工学概論	50
歯の解剖学	150
顎口腔機能学	60
歯科理工学	220
有床義歯工学	440
歯冠修復工学	440
小児歯科技工学	30
矯正歯科技工学	30
歯科技工実習	520
合 計	2,200

教育に必要な機械器具、標本及び模型

(1) 設備品・機械器具

品名	個数	備考
技工台	学生数	
コンプレッサー	適当数	
石膏トラップ	適当数	
ダウエルピン植立器	適当数	
モデルリムーバー	適当数	
技工用エンジン	学生数	
技工用マイクロスコープ	適当数	
リンダフナーホース	一以上	
真空埋没器	二以上	
溶接機(スロットまたはレーザー)	二以上	
鑄造機器一式	適当数	鑄造機(遠心または吸引加圧または真空加圧)・リバーナー・フローバインを含む
ボージェンブローキス	一以上	
電気レーズ	適当数	
集塵機	適当数	
サンボブラスタ	二以上	
研磨器	一以上	
スチームクリーナー	適当数	
エアークッター	適当数	
エアータービン	適当数	
サベヤー	二以上	
脱ろう装置	適当数	
義歯製作器具一式	適当数	加熱重合器・加圧重合器・プラスチック・熱可塑性樹脂成型装置を含む
パワレモーター	一以上	
超音波洗浄器	二以上	
薬品保管器	適当数	
滅菌器	適当数	
空気洗浄器	適当数	
光重合器	適当数	
測色器(シェードガイド含む)	適当数	
各種咬合器	各一	

歯科技工士国家試験の出題基準について

顔号	各一	
実験台	適当数	
実験用器具一式	適当数	実験台・マイクロカメラ・ビデオ・各種 測定計・はかり・圧感計・熱感測計・メ スリンダーを含む
万能試験機	一以上	
顕微鏡一式	一以上	金相顕微鏡・鏡み取り顕微鏡を含む

(2) 標本模型

品名	個数	備考
永久歯歯形彫刻模型(スナップ模型を含む)	適当数	
各種有床歯歯模型(スナップ模型を含む)	適当数	
各種歯冠修復模型(スナップ模型を含む)	適当数	
各種インプラント模型(スナップ模型を含む)	適当数	
各種歯科矯正装置模型(スナップ模型を含む)	適当数	
各種咬合誘導装置模型(スナップ模型を含む)	適当数	
顎蓋骨模型	一以上	

(3) その他

品名	個数	備考
プロジェクトー	一	
スクリーン	一	
VTR装置	一	視聴費用
パソコン	適当数	

(注) 学生数とは同時に実験を行う学生の数をいう。

1. 歯科技工と歯科医療
(出題方針)
(1) 歯科技工士法について出題する。
(2) 歯科技工士に密接な法律について出題する。
(3) 歯科技工物の品質管理について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 衛生行政	A 意識 B 組織及び活動	
2 歯科技工士法	A 法の目的と定義	a 法の目的 b 歯科技工の定義 c 歯科技工士の定義 d 歯科技工所の定義
	B 免許	a 免許 b 欠格事由 c 特種的要件と特種的要件 d 歯科技工士名簿 e 免許の登録、交付及び届出 f 免許の取り消し・業務停止
	C 試験	a 試験の目的 b 禁止行為 c 歯科技工指示書 d 指示書の保存義務 e 業務上の注意 f 守秘義務
	D 業務	
	E 歯科技工所	a 届出 b 管理者 c 管理者の義務 d 改番命令 e 使用の禁止 f 広告の制限

	F 罰則	g 報告の徴収及び立ち入り検査 h 構造設備基準
3 歯科技工管理	A 環境対策 B 品質管理	a 歯科技工に関する違反行為と罰則
4 歯科医療関係法規	A 医療法 B 歯科医師法 C 歯科衛生士法	a トレーサビリティ b 感染予防 a 目的 b 病院、診療所の定義 a 目的 b 歯科医師の任務 a 目的 b 歯科衛生士の定義

2 歯・口腔の構造と機能

(出題方針)

(1) 人の歯の形態と構造、口腔および周辺の筋・骨組織の基本的知識について出題する。

(2) 顎口腔系器官における機能の概要、下顎位、下顎運動に関する基本的知識について出題する。

(3) 歯科技工士の業務範囲にとどめ、特に咬合器の取り扱い、歯科技工物における咬合について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 歯の概説	A 定義 B 外形と内形 C 歯の種類と名称 D 歯の記号と歯式 E 歯の用語	a 歯冠 b 歯根 c 歯髄腔 a 前歯と臼歯 b 乳歯と永久歯 a 歯の記号 b 歯式 a 方向を表す用語 b 歯の部位を表す用語

	F 歯の形の概説	a 歯種の鑑別 b 上下の鑑別 c 順位の鑑別 d 左右の鑑別
2 永久歯の形態	G 歯の植立様式 A 切歯 B 犬歯 C 小臼歯 D 大臼歯	
3 歯の発生	A 歯胚の成長	a 歯冠の形成 b 歯根の形成
4 歯と歯周組織	A 歯の組織 B 歯周組織	a エナメル質 b 象牙質 c セメント質 d 歯髄 a 歯根膜 b 歯槽骨 c 歯肉
5 歯の異常	A 歯の数と萌出の異常 B 歯の形態の異常 C 歯の色の異常	
6 歯列と咬合	A 歯列弓 B 咬合(上下顎歯列弓の位置関係) C 歯の傾斜(歯の植立方向) D 歯列と咬合の異常	a 歯列弓の形 b 咬合平面と咬合彎曲 c 隣在歯との位置関係
7 頭蓋の骨	A 頭蓋骨	上顎骨、口蓋骨、下顎骨、側頭骨、蝶形骨、頬骨、鼻骨、舌骨
8 口腔周囲の筋	A 浅頭筋 B 深頭筋	

9 口腔	A 口腔 B 口蓋 C 唾液腺 D 舌	a 口腔前庭 b 固有口腔 c 口腔粘膜 a 役割 b 部位 a 舌乳頭 b 味蕾 c 舌筋
10 顎口腔系の概説	A 顎口腔系とは B 顎口腔系の機能 C 顎口腔系の基準面 D 顎口腔系の加齢	a 顎口腔系を構成するもの a 咀嚼 b 発音 c 嚥下 d 表情 a 前頭面 b 矢状面 c 水平面
11 顎口腔系の形態	A 歯列関連の平面 B 歯列内の彎曲 C 下顎運動の分析に関する基準点・基準平面 D 咬合に関する平面	a ボンタイル三角 b バルタイル角 a スピーの彎曲 b ウイルソンの彎曲 c モンソンの球面 a 切歯点 b 顎頭点(下顎頭) a フラングフルト平面 b カンベル平面 c 咬合平面

12 下顎運動	E 顎関節 F 顎口腔系を構成する筋 G 顎口腔系の神経支配	d HIP 平面 a 関節円板 b 関節包 c 韧带 a 咀嚼筋 b 咀嚼筋の機能 a 神経支配
13 下顎位	A 咬頭咬合位 B 下顎安静位 C 偏心位	a 安静空隙 a 前方位 b 側方位
14 歯の接触様式	A 歯の形態と機能 B 咬頭咬合位での接触(咬合関係) C 偏心位での接触(咬合様式)	a 機能咬頭と非機能咬頭 b 被蓋 a 咬頭対窩 b 咬頭対辺縁隆線 c ABC コンタクト a 犬歯路線 b グルーブアブレーション c 両側性平衡咬合

15 咬合器	A 咬合器の使用目的 B 咬合器の機構と分類	a 修復物の製作 a 顎運動の再現法 ① 顎路の再現 ② 咬合路の再現 b 咬合器の構造と分類 ① 平均値咬合器 ② 半調節性咬合器 c 上顎模型の装着 D 下顎模型の装着 E 咬合器の調節 F 半調節性咬合器の使用法 a チェックバイト法
--------	---------------------------	---

3 歯科材料・歯科技工機器と加工技術

(出題方針)
(1) 歯科技工に用いる材料と機器の特性および使用方法に関する知識について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 歯科材料の性質	A 機械的性質 B 物理的性質 C 化学的性質 D 生物学的性質	a 応力とひずみ b 強さ c 展性と延性 d 硬さとその試験法 a 密度 b 熱膨張 c 熱伝導率 d 粘弾性 a 腐食と変色 b 接着性
2 印象材	A 分類 B 種類 C 性質	a 寸法安定性 b 永久ひずみ・弾性ひずみ

		模型材との関係
3 石膏	A 種類 B 性質	c 流動性 b 硬化時間 c 硬化・吸水膨張 d 圧縮強さ
4 フックス	A 種類と用途 B 組成 C 性質	
5 レジン成形	A 歯冠用レジン B 加熱重合レジン C 常温重合レジン D その他の歯冠用レジン E 成形法 F 人工歯 G 歯冠用積質レジン	a 所要性質 a 組成 b 性質 a 組成 b 性質 a 種類 a 加熱重合 b 常温重合(流し込み成形) c 光重合 d 加熱・加圧成形、射出成形 a 組成 b 性質 c 金属との結合
6 セラミック成形	A 歯冠用セラミックス B 歯利用陶材 C 金属焼付用陶材	a 種類 a 種類 b 組成 c 架焼・焼成 d 性質

	D オールセラミックス用陶材 (加熱加圧型セラミックス) E ジルコニア	a 金属との結合 a 種類 b 成形法の種類 a 種類 b 成形法
7 金属成形	A 齒科用合金 B 金合金 C 鋳合金 D コバルトクロム合金 E チタニウム合金 F 鋳造収縮と矯正 G 埋没 H 鋳造操作 I 鋳造欠陥 J 金属の加工	a 所要性質 a 種類と用途 b 組成と添加元素の役割 c 性質 a 種類と用途 b 組成と添加元素の役割 c 性質 a 用途 b 組成と添加元素の役割 c 性質 a 種類と用途 b 組成 c 性質 a 埋没材 b 埋没操作 c 鋳型の加熱 a 金属の溶解方法 b 鋳込み方法 c 鋳造後の種類 a 種類 b 原因と対策

	K 金属の接合	a 塑性加工と硬化 b 焼きなまし a 鋲付け b 鋲付け法 c 溶接 d 鋲接
	L 合金熱処理	a 軟化熱処理 b 硬化熱処理
8 切削・研削・研磨	A 意義と目的 B 切削・研削・研磨用材料と器械 C 方法	a レジンの研磨 b セラミックスの研磨 c 金属の研磨

4. 有床義歯技工学

(出題方針)

(1) 全部床および部分床義歯技工に関する理論と技術について出題する。

(2) 齒科技工操作および製作方法について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 有床義歯技工に関する生体の基礎知識	A 基準平面	a 咬合平面 b カンペル平面 c フラングフルト平面
	B 審美的基礎知識	a 顔貌と歯の形態 b SPA 要素 c スマイルライヴ
2 全部床義歯の特性	A 構成要素	
	B 分類	a 床用材料による分類 b 使用目的による分類
	C 維持、安定と支持	
3 全部床義歯の印象採得に伴う技工操作	A 研究用模型の製作	
	B 個人トレーの製作	
	C 作業用模型の製作	

4 全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作	A 咬合床の製作	a 咬合床の目的 b 床外形線と歯槽頂線 c リリーフ d ポストダム e 咬合床の製作方法 f 標準線 g 咬合平面板を用いた装着 h フェイスボウを用いた装着 o ゴシックアーチ描記装置の取りつけ
5 全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成	A 人工歯の種類 B 人工歯の選択 C 前歯部人工歯排列 D 臼歯部人工歯排列 E 歯肉形成	a 前歯部人工歯排列の技工 b オーバーバイトとオーバージェット c 臼歯部人工歯排列の技工 d 歯槽頂間線法則 e 咬合平衡 f クラスワンセブ現象と顎前彎曲 g 目的と方法 h 床縁の形態 i S 字状隆起とベラプログラム
6 全部床義歯の嚙義歯埋没とレジン重合	A 埋没の種類と方法 B 嚙義歯用レジンの埋入方法 C 嚙義歯用レジンの重合方法	
7 全部床義歯の咬合器再装着および削合、研磨	A 咬合器再装着の方法 B 人工歯の削合	a スクリットキヤース法 b テンチの歯型法 c 削合の目的と方法 d 咬合小面 e 選択削合と自動削合 f 人工歯咬合面の形態修正
	C 嚙義歯研磨の目的と要点	

8 部分床義歯の特性	A 構成要素の種類 B 分類	a 残存歯、欠損の分布状態による分類 b 咬合圧の支持様式による分類 c 使用目的別による分類
9 部分床義歯の構成要素	A 支台装置	a 分類 b クラスアの分類と特徴 c レストの種類と目的 d 補助支台装置の種類と目的
10 部分床義歯の印象採得に伴う技工操作	A 個人トレーの製作 B 作業用模型の製作	
11 部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作	A 咬合床の目的と製作法	
12 クラスア	A サバイヤーの使用目的、種類、使用方法 B クラスアの製作法	
13 アタッチメント	A 構造 B 種類	
14 テレスコープ義歯	A 構造と特徴	
15 パー	A 鑄造パーの製作 B 屈曲パーの製作	
16 部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成	A 人工歯の選択 B 前歯部排列 C 臼歯部排列 D 歯肉形成における残存歯との関係	a 前歯部人工歯排列の技工 b 審美性の回復 c 臼歯部人工歯排列の技工 d 咬合歯、隣在歯、支台装置との関係
17 部分床義歯の嚙義歯の埋没とレジン重合	A 加熱重合法 B 流し込みレジン重合法	
18 修理	A 破折・破損の原因	
19 リベースとリライン	A 目的	

	B 方法	
20 オーバーデンチャー	A 目的	
21 金属床義歯	A 利点と欠点 B 製法	

5 歯冠修復技工学

(出題方針)

(1) 各種歯冠修復物およびブリッジの製作に関する知識および技術について出題する。

(2) 歯科技工操作および製法について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 歯冠修復技工学概要	A 歯冠修復技工学の意義と目的	
2 クラウツの概要と種類	A クラウツの意義、特徴、用途 B クラウツの種類	a 部分被覆冠の種類と特徴 b 全部被覆冠の種類と特徴
3 フリッジの概要と種類	A フリッジの特徴 B フリッジの構成要素 C フリッジの種類	a 固定性フリッジ b 半固定性(可動性)フリッジ c 可撤性フリッジ
4 クラウン・ブリッジの具備条件	A 生物学的要件 B 構造力学的要件 C 化学的要件 D 審美的要件	a 歯および歯列との関係 b 歯周組織との関係 c 清掃性との関係 d 機能の回復 e 形態の回復 a 化学的安定性
5 クラウン・ブリッジの技工操作	A クラウン・ブリッジの製作工程 B 印象材の種類と特徴 C 研究用模型 D 印象用トレー	ポーセレン・インレー、フンレー、ポーセレン・ジャケット・クラウン a 印象方法 a 使用目的 a 印象用トレー

	E 文台築造 F テンポラリークラウン・ブリッジ G シェーパッチング H 作業用模型 I 咬合器装着 J フックスアップ K 研磨 L レジン前装 M 陶材の前装	a 種類と目的 b 製法 a 意義と目的 b 種類と使用材料 c 製法 a 意義と目的 b 種類と使用材料 c 製法 a 要件と方法 a 意義と目的 b 構成と要件 c 種類 d 製法 e 磨型の辺縁形態 a 種類と特徴 a 意義と目的 b 方法 a 前装部の形態、接着方法 a 陶材の築造方法 b ニーデンスの意義 c 陶材の構成 d 破折の原因
6 フリッジ	A ボンデバツク B 連結法	a 要件と構造 b 種類と形態 c 適用部位 a フンピースキャスト法 b 銀付け法

7 インテラント(人工歯根)	A 目的 B 種類 C 上部構造の製作	
8 CAD/CAM システム	A 特徴 B CAD の種類 C CAM の種類	

6.小児歯科技工学

(出題方針)

(1) 歯の萌出について出題する。

(2) 修復物、保険装置、スペースリテーナー、口腔留置除去装置の目的と装置の構成に関する知識について出題する。

(3) 保険装置、スペースリテーナーの製作に関する知識について出題する。

大項目	中項目	小項目
1 小児歯科治療の概説	A 小児歯科治療の意義と目的	
2 歯・顎・顔面の成長発育	A 歯の萌出 B 乳歯の形態的特徴 C 無歯期 D 乳歯列期 E 混合歯列期	a 乳歯の萌出時期と順序 b 永久歯の萌出時期と順序 c ヘルマンの歯齡 a 上下顎歯槽堤の対向関係 b 顎間空隙 a 乳歯列の形態 b 生理的歯間空隙 ① 過長空隙 ② 発育空隙 c 有隙型歯列と閉鎖型歯列 d オーバージェット、オーバーバイト e ターミナルスペース a 第一大臼歯萌出期 b 切歯萌出期 ① 切歯の交換様式 c 側方歯群交換期 ① リーウェイスペース
3 小児の歯冠修復	A 小児の歯冠修復の特徴	

	B 小児の歯冠修復の種類	a 成形修復 b インレー c 被覆冠 ① 乳歯用既製金屬冠
4 保険装置	A 保険の意義と目的 B 保険装置の必要条件と分類 C クラウナルーフ保険装置 D バンドルーフ保険装置 E ティンタルシェー保険装置 F 舌側強線型保険装置 (リソガルチ) G ティンスのホールティンガラチ H 可撤保険装置	a 目的 b 装置の構成 c 使用材料と器具 d 製作法と製作上の注意点 a 目的 b 装置の構成 c 使用材料と器具 d 製作法と製作上の注意点 a 目的 b 装置の構成 c 使用材料と器具 d 製作法と製作上の注意点
5 スペースリテーナー	A スペースリテーナーの意義と目的 B 拡大ネジを応用したスペースリテーナー C アダムスのスプリングを応用した	a 装置の構成 b 使用材料と器具 c 製作法と製作上の注意点

	スパーシブザー	a 装置の構成
6 口腔顎顔除去装置	A 口腔顎顔の種類 B 装置の種類	a 咬指顎除去装置 b 舌顎除去装置 ①装置の構成
7 咬合誘導装置に用いる維持装置	A アダムスのクラスア B シュワルツのクラスア C 唇側線 D 単純鉤 E ボールクラスア	a 特徴 b 製作法と製作上の注意点 a 特徴 b 製作法と製作上の注意点 a 特徴 b 製作法と製作上の注意点 a 特徴 b 製作法と製作上の注意点 a 特徴 b 製作法と製作上の注意点

7.矯正歯科技工学

(出題方針)

- (1)矯正歯科治療の意義と目的について出題する。
- (2)矯正歯科技工に必要な器具および基本的実技に関する知識について出題する。
- (3)矯正用模型に関する知識について出題する。
- (4)矯正装置の目的と装置の構成に関する知識について出題する。
- (5)矯正装置の製作に関する知識については、主たる装置についてのみ出題する。

大項目	中項目	小項目
1 矯正歯科治療の概説	A 矯正歯科治療の意義と目的	a 意義と目的 b 動的矯正治療 c 保定
	B 正常咬合	a 条件 b 種類
	C 不正咬合	

		a 個々の歯の位置異常 b 歯列弓の形態異常 c 上下の歯列弓の対向関係の異常 d アンゲルの不正咬合の分類法
2 矯正歯科技工用器械・材料	A プライヤー B その他の器具・材料	A ミニトーチ b 構成咬合器 c スポットウエルダー d 加圧重合器 e 矯正用線
3 矯正歯科技工の基本的実技	A 矯正用線の屈曲 B 自在編付け	a 線屈曲の原則 b 線屈曲の基本手技 a 自在編付けの一般的原則 b 自在編付け法の手順
4 矯正用模型の製作	A 矯正用口腔模型の種類と特徴 B 矯正用口腔模型の製作法	a 平行模型 b 顎形模型 c セットアップモデル(予測模型) a 平行模型の製作法と製作上の注意点 b セットアップモデル製作法と製作上の注意点
5 矯正装置の必要条件と分類	A 矯正装置の必要条件 B 矯正装置の分類	a 矯正装置の基本的な条件 b 口腔内で使用される矯正装置の所要条件 a 矯正力の働き方による分類 b 固定源の場所による分類 c 固定式か可撤式かによる分類
6 矯正装置の種類と製作	A 舌側顎顔装置	a 目的 b 装置の構成 c 使用材料と器具

歯科専門職の資質向上検討会委員

氏名	所属	役職
大塚 吉兵衛	日本大学	学長
金澤 紀子	日本歯科衛生士会	会長
小森 貴	日本医師会	常任理事
末瀬 一彦	全国歯科技工士教育協議会	会長
宮村 一弘(第1回) 富野 晃(第2回～)	日本歯科医師会	副会長
古橋 博美	日本歯科技工士会	会長
眞木 吉信	全国歯科衛生士教育協議会	会長
俣木 志朗	日本歯科医学教育学会	理事長
佐藤 田鶴子(第1回) 松村 英雄(第2回～)	日本歯科医学会	副会長
安井 利一	日本私立歯科大学協会	副会長
山口 育子	ささえあい医療人権センターCOML	理事長

◎:座長

歯科専門職の資質向上検討会 歯科医師ワーキンググループ委員

氏名	所属	役職
秋山 仁志	日本歯科大学	教授
一戸 達也	東京歯科大学	教授
伊東 隆利	伊東歯科口腔病院	院長
小正 裕	大阪歯科大学	教授
小森 貴	日本医師会	常任理事
田山 秀策	東京都立広尾病院	医長
丹沢 秀樹	千葉大学	教授
中島 信也	日本歯科医師会	常務理事
樋口 勝規	九州大学	教授
久 育男	日本耳鼻咽喉科学会	副理事長
藤井 規孝	新潟大学	教授
俣木 志朗	日本歯科医学教育学会	理事長
山口 育子	ささえあい医療人権センターCOML	理事長

○:座長

歯科専門職の資質向上検討会
歯科技工士ワーキンググループ委員

氏名	所属	役職
大西 宏昭	大阪府岸和田保健所	所長
尾崎 順男	日本歯科大学東京短期大学	准教授
白石 小百合	横浜国立大学	教授
末瀬 一彦	全国歯科技工士教育協議会	会長
杉岡 範明	日本歯科技工士会	副会長
杉田 順弘	東洋医療専門学校	歯科技工士科 学科長
鈴木 哲也	東京医科歯科大学	教授
瀬古口 精良	日本歯科医師会	常務理事
時見 高志	有限会社 プラスONE	代表取締役
松下 正勝	岡山歯科技工専門学院	教務部長

○:座長

第百一十卷

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十

卷之十